

図1は、点Oを頂点とし、線分ABを底面の直径とする円錐である。点Aから糸がたるまないように母線OBを通過して、1周して点Aにもどってくるように糸をかける。このとき、母線OBと糸の交点をPとする。図2は、この円錐の側面の展開図であり、点A'は組み立てたときに点Aと重なる点である。点Pを通る糸の長さが最も短くなる時、その糸の様子を図2に作図しなさい。また、点Pの位置を示す文字Pも書きなさい。

ただし、三角定規の角を利用して直線をひくことはないものとし、作図に用いた線は消さずに残しておくこと。

